



眉山で昆虫採集

三好 康彦 (友の会会員)

1. はじめに

2023年5月28日、日曜日、晴れ、眉山へ2種類の蝶を狙って昆虫採集に出掛けることにしました。

2. ミカドアゲハの幼虫採集

午前9時30分に眉山公園の駐車場に車を止め、山頂駅周辺を散策しました。眉山公園のタイサンボクの白い大きな花は終わりかけていましたが、開きかけた若葉がたくさん観察されました。若葉はミカドアゲハの幼虫が食べるには丁度良い時期と思われました。そこで、丹念に下から若葉を透かすように見上げ、小さな穴の開いた若葉や黒くて小さいしずくのような形をした幼虫がないか探していきました。途中、植物の観察会か、数名の方々がタイサンボクの花を見にやってきました。花の説明をしていた講師らしき人が「居りましたか」と話しかけてきたので、「居りました。ひとつだけですが」と返事をしました。その言葉を聞いてか、「何が居たのですか」と尋ねられたので、採ったばかりの幼虫(図1)を見てもらいました。「なんの幼虫ですか」との問いかけに「なんだと思われませんか」と聞き返すと、興味津々に幼虫を眺めてきたので、「アゲハチョウの仲間です」と答えておきました。すると、「アゲハチョウの幼虫ですか? 黒くてちっちゃいですね。」と呟やかれたので、半信半疑なのかなと思いました。そこで、ミカドアゲハの幼虫に関して詳しく説明すると、『槇野万太郎 (NHKの朝ドラ「ら



図1 ミカドアゲハの幼虫(矢印)とタイサンボクの若葉

んまん」の主人公) みたいですね。しゃべりも格好も似ています。』と言って戴きました。少し幸せな気持ちになりました。

3. ウラゴマダラシジミの母蝶採集

駐車場に止めた車に戻って、次に狙う蝶、ウラゴマダラシジミを採集するために捕虫網を手に取り、眉山公園から道沿いを探して歩くことにしました。幼虫はイボタの葉を食べ、蛹になり蝶になるので、母蝶はイボタの花の蜜を吸いに来ている可能性が高いとイメージして探すことにしました。良さそうなイボタの花を捕虫網で軽く叩くと、モンシロチョウぐらいの淡いブルーの蝶が頭飛び出しました。これは大きなルリシジミかなと思いましたが、断定はできません。蝶を見失った辺りのイボタの茂みを慎重に軽く叩いていくと再び飛び出しました。太陽の光を浴びて淡いブルーがまぶしく輝いて見えました。逃してはなるものかと、高鳴る鼓動を沈めながら慎重に蝶をネットインさせました。ネットに入った蝶(図2, 3)はウラゴマダラシジミであり、腹部の大きな完品(羽の破損のないきれいな個体)の♀だと確信しました。「やった」とガッツポーズをってしまったのは

言うまでもありません。

4. おわりに

いくつになっても、子どもの頃のようにわくわくどきどきさせてくれる体験、昆虫採集は、すばらしい趣味だと思いませんか。



図2 捕虫網の中のウラゴマダラシジミ



図3 採集したウラゴマダラシジミ♀の表の紋様

友の会行事報告

おふだをしらべよう

- 日時 2月18日(土) 10:00～12:00
- 場所 博物館実習室
- 担当 いしおかずひと 石尾和仁(友の会役員)
しょうたけりこ 庄武憲子(博物館学芸員)

○参加者 6名
おふだは、神仏の守護によって災厄や病難を防いだり除いたりできると信じられているものです。文献やインターネットの情報を参考にしながら、学芸員と参加者が協力して、おふだを

調べました。参加者同士の親睦も深まりました。
(丸山直生)

Voicé 参加者の声

●高平和代さん

おふだを調べるとはどんなことが興味があり希望したところ、受講できてとても嬉しかったです。おふだの種類など、いろいろ丁寧に教えて頂きました。また貴重なおふだを実際に手にとって調べていたら、よく知っているお宮やお寺、おふだも身近にあるものもあり、とてもおもしろかったです。また機会があれば参加させてほしいです。

●吉岡 滋さん

友の会へ入会し初めての参加です。四国八十八ヶ所へ3回ほどお参りしています。発給元?絵札?御師等を参考本により調べ、分類し、袋に整理しました。未知のことを知る楽しさ、昔の人の価値観、仏教伝来からの長期的な視点でみる、心を豊かにする、文化の価値を今こそ再認識すべきと思った日でした。

●大杉洋子さん

古いおふだ(護符)を見せていただいた。版木に彫られ印刷された物がほとんど。鳥の姿を使って図案化した「熊野牛王宝印」という貴重な物も出てきた。起請文や厄除につかわれたらしい。珍しい物に出会えてよかった。また、このような催しがあれば参加したいと思う。

●友の会行事面白くて好きな人さん

この行事では、博物館に保存されているおふだを直接手に取るという特別な体験ができ、とても興奮しました。おふだの状態や内容から、配布された場所や理由について先生や参加されている皆さんと意見を出し合いながら、参考資料を探しながら見つけていく過程がとても楽しかったです。

おふだは授かった社寺へお返し(する事が多いと思いますが)しますが、何らかの事情で残

されたものが、この調べる機会を私に授けてくれた事に感謝です。企画して下さいました皆様にも感謝です。



おふだを整理する参加者

友の会行事報告

化石をさがそう！

- 日 時 3月4日(土) 13:30～15:00
- 場 所 博物館野外テラス
- 担 当 幸坂敏行(友の会役員)
中村由香(友の会役員)
辻野泰之(博物館学芸員)
小布施彰太(博物館学芸員)

○参加者 16名
博物館が発掘調査を行っている勝浦町の「ボーンベッド」の岩石を使用するという事で、期待が高まっていました。発掘調査の様子やハンマーの正しい使用方法等の説明後、待ちに待った化石さがしが始まりました。しかし、植物化石や貝化石は見つかったものの、多くの参加者がターゲットにしていた脊椎動物の化石は、なかなか見つかりませんでした。終了の時間が迫り、「今回は脊椎動物化石の発見は無理かもしれない・・・」と思ったその時、「魚のウロコです！」という学芸員の声が響きました。参加者たちからは、大きな拍手が起こりました。発見者のお二人には「化石ハンター認定証」が授与されました。化石は博物館に寄贈していただきました。(丸山直生)

Voicé 参加者の声

●吉岡 滋さん

お世話になりました。白亜紀前期(約1億3000万年前～約1億年前)の地層の石、また、植物、イグアノドン等恐竜の化石との対面。石割り体験は、身震いするワクワク感と悠久の地球とSDGsを想い感動の学びでした。

●M and Mさん

私たちにとって、特別な思い出が一つ増えました。割れた石の表面を学芸員さんに見てもらおうと「魚のウロコがある！」と言って、白い点々でわかりやすく囲んでくれました。終了まぎわのまさかの出来事に、私たちは顔を見合わせました。

●寺島幸生さん

動物の化石を見つける難しさを体験することができて、学びの多い経験でした。「化石発掘」と聞くと、華々しくスケールが大きくロマン溢れるイメージですが、それよりもコツコツと石を探して割ってよく調べての、地道な努力の積み重ねで成り立っていることを体験できました。何もめぼしいものが見つからないまま、ひたすら石を割る中で、恐竜の化石が徳島で見つかったことが、いかに貴重なことかを知ることができました。学芸員の方や担当の友の会の方々が、石を割るコツや化石が出そうな石を、ていねいに教えてくださったおかげで、楽しく参加することができました。ありがとうございました。



「化石をさがそう！」に参加した皆さん

友の会行事報告

愛媛日帰りバスツアー

- 日時 3月21日(火・祝)
 ○場所 愛媛県総合科学博物館
 マイントピア別子
 ○担当 徳野壽治 (友の会役員)
 大杉洋子 (友の会役員)
 中尾賢一 (博物館学芸員)

- 参加者 23名

あいにくの雨でしたが、県西部の山には桜が咲きはじめ、春の訪れを感じる旅となりました。

愛媛県総合科学博物館では、企画展「標本で見るときの植物 春夏編」について、担当学芸員による展示解説がありました。

マイントピア別子では、鉱山観光と砂金採り体験をしました。まず、観光列車に揺られて「観光坑道」へ行き、別子銅山の歴史を学びました。砂金採り体験では、金・銀をはじめ、タイガーアイなど様々な宝石を見つけることができました。(丸山直生)

Voice 参加者の声

●植田扶美さん

バスツアーにはじめて参加させていただきましたが、楽しかったです。もし可能なら、先に「ニホンカワウソ」や「石英」「結晶」「花について」を机上で勉強させてもらってから、博物館を見たかったです。どうしても先生の話は人数が多いと聞けなかつたりするので。砂金採りは子供がとても喜んでいました。

大人の私も黙々と集中して探させてもらいました。人生2回目でしたが、楽しかったです。もし、あと可能なら文化の森総合公園に集まるだけではなく、高速ICのバス停で乗り降りができるとうれしかったです。写真ありがとうございました。集合写真はとても嬉しかったです。



マイントピア別子での集合写真

●桑内 隆さん

博物館の花などの特別展、自然そのままのきれいな標本とレプリカに感動しました。レプリカは、造花と違うと初めて知りました。ちなみに小枝の「レプリカ」が60万円とは驚きました。「マイントピア別子」では、昔の鉱山道、暗くて狭い穴の中で働く苦勞がしのばれました。面白い体験ができました。お世話になりました。

●高濱育子さん

先日は大変お世話になりました。あいにく雨降りでご残念でしたが、楽しい1日を過ごすことができ、また、有意義な時間を持つことができました。愛媛県総合科学博物館での植物の標本、説明もよく分かり種類の多さに感動しました。砂金採り体験も初めてなので、なかなか見つけることができず、あせりましたが、砂のなかにキラリとした物が見えた時は嬉しかったです。皆様お世話になりました。次の時も参加したいです。

●Kさん

コロナ禍に県外から移住して来た私にとっては、初めての(友の会イベントでは)県外での行事でした。道中も中尾学芸員より地層や化石があるサービスエリアなどについて話を頂き、楽しい時間でした。博物館の企画展では、標本がとにかく美しく、すばらしかったです。

マイントピア別子では、初めての砂金採り体験をし、夢中になって探し、金と銀が採れてうれしかったです。今回も貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました！！

報告

2023 年度総会

2023 年度の友の会総会を、4 月 23 日(日)14 時 45 分より博物館 3 階講座室にて開催しました(参加者は 18 名)。

議事につきましては、2022 年度事業報告、決算報告、監査報告、役員改選、2023 年度事業計画、予算について審議した結果、すべて承認されました。

また、総会終了後には、植地岳彦学芸員の解説により、企画展「朱を求めて一若杉山辰砂採掘遺跡からみる徳島の弥生時代一」を観覧しました。

1. 2023 年度友の会行事

(1) 藍の館見学と周辺地域の歴史散歩

実施日：6 月 24 日(土)

場所：板野郡藍住町

(2) 化石をさがそう！

実施日：7 月 16 日(日)

場所：博物館

(3) 兵庫県の自然系博物館日帰りバスツアー

実施日：9 月 9 日(土)

場所：兵庫県立人と自然の博物館
丹波 竜化石工房ちーたんの館

(4) 鳴門・板野古墳群レール&ウォーク

実施日：11 月 12 日(日)(予定)

場所：鳴門市大麻町～板野郡板野町

(5) ドイツ館と周辺の見学

実施日：11 月 26 日(日)(予定)

場所：鳴門市大麻町

(6) 徳島中央公園の地質見学

実施日：1 月 27 日(土)(予定)

場所：徳島市

※総会后、役員との協議の上、次の(7)の行事を追加、実施しました。

(7) 自分だけの博物館オリジナルファイルをつくろう！

実施日：8 月 19 日(土)

場所：博物館

2. 広報活動

博物館広報印刷物(月別催し物案内・企画展チラシ・博物館ニュース・文化の森から等)を提供します。

3. 図録の販売

企画展図録『朱を求めて一若杉山辰砂採掘遺跡からみる徳島の弥生時代一』と鳥居 龍蔵記念博物館企画展図録『台湾世界を往く一鳥居龍蔵が見た山・海・ひと・ムラー』の販売をします。

4. 友の会会報の原稿募集及び発行・配布

会報「アワーミュージアム」No. 72、73 の発行・配布をします。

5. 会員募集

(1) 来館者に案内チラシを配布します。

(2) 博物館普及行事において、参加者に友の会の案内を行います。

6. 友の会グッズの販売

ポストカードとクリアファイル 2 種(自然・人文)、缶バッジ 4 種の販売をします。

7. 2023 年度 友の会役員

会長：結城孝典

副会長：大杉洋子、徳野壽治

長谷川賢二(館長)

幹事：行成正昭、幸坂敏行

本田壮一、坂井なつ

監査：石尾和仁、中村由香

事務局長：東 條 正幸(副館長)

事務局員：

大橋俊雄(課長)、小川 誠(課長)

丸山直生(係長)、鉄谷雅史(係長)

庄 武憲子(学芸員)、辻野泰之(学芸員)

外村 俊輔(学芸員)

友の会会長就任にあたって

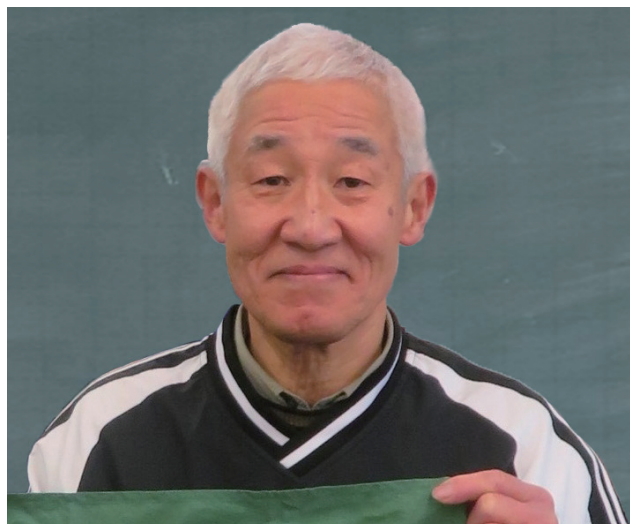
結城 孝典 (友の会会長)

今年度から博物館友の会の会長に就任することになりました結城孝典と申します。会長としては、はなはだ力不足ではありますが、会の発展のために尽力してまいりますので、どうかよろしくお願いたします。

私は吉野川市山川町在住で、今年で67歳になります。現在は地元の小さな公民館の運営に携わっていますが、現役時代は、高校の地理歴史科の教員をしていました。定期異動で平成9年から3年間、県立博物館の勤務も経験しました。その時は友の会の事務局も担当しました。巡り合わせとはいえ、自分がこうした立場になるとは思ってもみませんでした。

博物館勤務の時代もそうですが、今も私は自分のまわりの自然や歴史、文化について、知らないことが多いと感じています。何もかも知ることは難しいことですが、今の自分や社会がどのようにできあがってきているのかを知ることが、自分はこれからどう生きるか、どういう社会をめざすのかを考えると基礎あるいは土台になるものだと思います。また、自分を巻き取る自然や文化を理解することは、自己肯定感にもつながると思います。現在も何かと課題の多い時代ですが、困難に向き合ったとき、あきらめず粘り強く取り組むエネルギーを与えてくれるものでもあると思います。

私個人の勝手な意見になってしまいましたが、会員の皆さんもそれぞれに、自然や歴史、文化に興味関心をお持ちのことと思います。それを切り口にして、博物館を介してともに地域の自然や歴史、そして文化といったものの背景を楽しく理解していければと思います。実りある楽しい友の会活動をめざして頑張りますので、これからもご理解、ご協力をどうかよろしくお願いたします。



結城孝典 会長

新スタッフ紹介

●東條正幸 (副館長)

今年の6月に、博物館の副館長として着任しました東條正幸と申します。鳥居龍蔵記念博物館と近代美術館の副館長を兼務しています。

私は、徳島県阿南市出身で、1986年から徳島県職員(行政職)としてお世話になっています。

このたび、文化の森の業務に携わらせていただく機会をいただきましたので、少しでも地域への恩返しができるように、また、皆様楽しんでいただけるように取り組んで参ります。よろしくお願いたします。



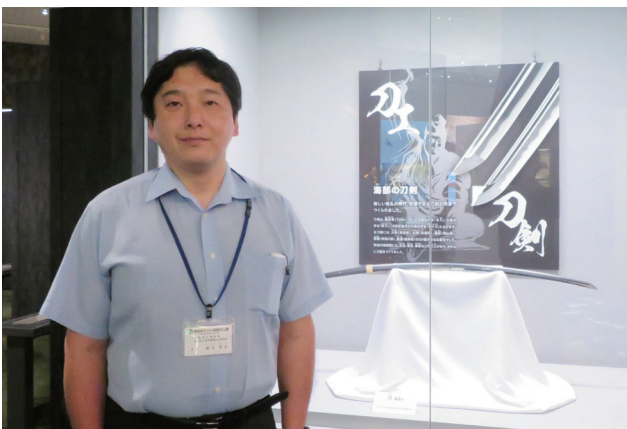
東條正幸 副館長

●^{てつたにまさふみ}鉄谷雅史（企画担当 係長）

友の会会員の皆様、お久しぶりです。まさかの6年ぶり2度目の勤務となりました。

平成28年度末に3年間の勤務を終了した後、^{かいよう}海陽中学校に3年間、^{ししくい}宍喰中学校に3年間勤務していましたが、その間は友の会の一会員として、展示解説を聴いたり図録を買ったりするなど、可能な限り博物館に足を運んでおりました。

転機となったのは、昨年度の友の会総会の日でした。その日の私はただ^{じゆんすい}純粹に企画展の展示解説を聴くためだけに来館したのですが、そのときは総会があることを忘れており、博物館の皆様にご誘われるままに、総会と会員限定の展示解説に参加することになりました。今から思えば、このときから再びこの場所に身を置く運命だったのかもしれませんが。今後ともどうかよろしくお願いたします。



鉄谷雅史 係長

●^{とむらしゆんすけ}外村俊輔（動物担当学芸員）

今年の4月から動物（昆虫）担当の学芸員に着任しました外村俊輔と申します。出身は九州の福岡県で、これまで四国に住んだことはなく、一人暮らしも今回が初めてです。地元とは様々な文化の違いがあり分からないことばかりですが、これから少しずつ新しい暮らしに慣れていきたいと思ひます。

私は昆虫の中でもチョウ目、特にガの仲間の^{けいたい}形態や^{たようせい}多様性に興味があり、これらを専門とし

^{ぶんるい}て分類などの研究を行っています。大学院では、マルハキバガ科という1センチメートル程度のとても小さなガを対象としており、生息地での採集や博物館の収蔵標本の調査などのため全国各地へ^{おもむ}赴き、^{しゆ}種の分類と幼虫の生態の解明に取り組ましました。その過程で、^{かいようちよう}海陽町で採集されたガの^{ひようほん}標本コレクションの調査に参加する機会があり、これまで四国から記録のなかった種などを報告することができました。

昆虫の仲間は、とにかく多様で、特に小さな種は人の目に触れにくいいため、まだ分かっていないことが多く、ごく身近な環境からも^{きしやう}希少な種や国内から記録のない種、新種などが見つかることがあります。徳島県においても、たくさんの発見が人知れず眠っていると思われます。これからは学芸員として、徳島県の^{こんちゆうそう}昆虫相を^{みりよく}解明し、その魅力を^{はつくつ}発掘するために取り組んでまいりますので、皆様どうぞよろしくお願いたします。



外村俊輔 学芸員



昆虫標本を整理する様子

●鈴木佑弥 (動物担当学芸員)

4月に動物担当学芸員として着任しました鈴木佑弥と申します。出身は静岡県ですが、学生時代には関東、沖縄、九州を転々とし、このたび徳島の地にやってきました。

私が担当するのは、「昆虫以外の無脊椎動物」です。あまりピンとこない方が多いかもしれませんが、身近な生き物でいうとクモやムカデ、ダンゴムシ、カニ、カタツムリなどが当てはまります。ほかにも、ヒトデやクラゲなどの海の生き物も対象になります。

その中でも私が専門としてきたのは、クモのなかまです。糸を自在に操り、獲物を捕らえる狩人としての魅力にとりつかれ研究を始めたのですが、いざ研究を進めると、まだ名前がついていない種(専門的には未記載種といいます)が多いことを知り、それらを整理する学問である分類学に興味を持ちました。その分類学を進めるうえで、生物の標本を各地から集め、整理、保存する博物館はとても大切な役割を担っています。

県博の学芸員として、県民の皆様とともに無脊椎動物の面白さ、多様さを追究していければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



鈴木佑弥 学芸員

●坂東 泰 (鳥居龍蔵記念博物館学芸員)

鳥居龍蔵記念博物館を本務とし、県立博物館を兼務する形で、本年4月に学芸員として着任致しました。私は徳島県出身ではありますが、大学に進学した後は県外で過ごしていたので、この度は久方ぶりに帰郷した形となります。大学と大学院に在籍していた頃は、中国の近代史について、研究を進めておりました。

私は歴史担当ではありますが、所属先の各館が扱っている歴史分野は概ね日本史に関するものであり、私が専攻していた分野とは異なっております。それ故、この度の着任はある意味では、ゼロからの出発でもあります。高等学校在学以前の頃を思い返してみると、授業中に教わる事からさらに踏み込む形で、地元の歴史に関する事柄を調べた事はなかったと思います。馴染みのない事柄に取り組むという意味で、不安を感じる所がある反面、他分野とはいえ一度研究生活を経てきた現在は、地元の歴史に関する事柄から何を見出すことができるのであろうかと、楽しみに思っている所もあります。

各館が所蔵する資料の調査、展示の作成、普及行事の開催といった諸活動を通して、鳥居龍蔵の事績と徳島県のこれまでを皆様と共に学んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



坂東 泰 学芸員

アワーミュージアム 第72号

2023年8月31日発行 : 徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197